

ゆりいせき 25. ユリ遺跡

所在地：三方上中郡若狭町鳥浜・向笠

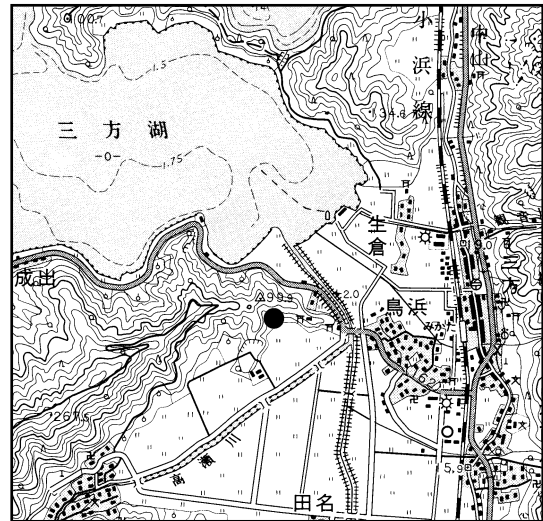
調査原因：学術調査

調査期間：平成 23 年 8 月 1 日～9 月 13 日

調査主体：若狭三方縄文博物館

調査面積：63 m²

時代：縄文時代・弥生時代・古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

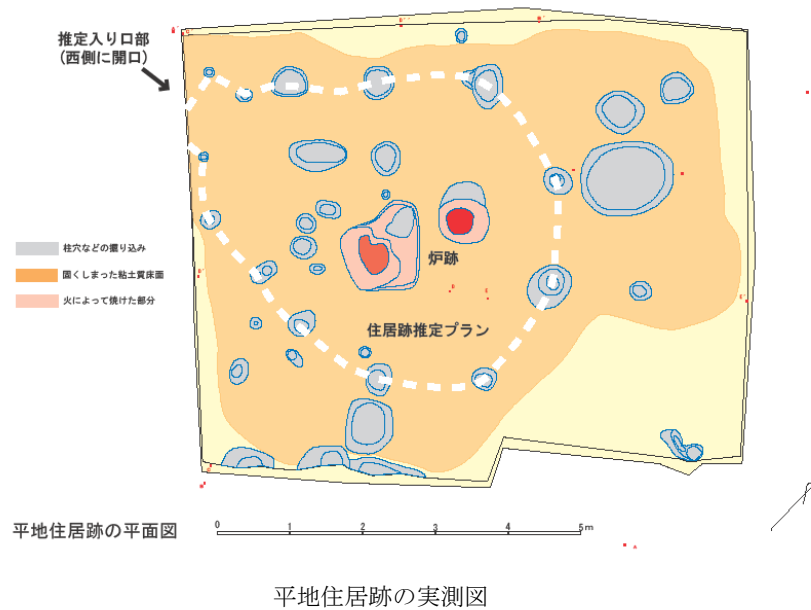
調査の概要 ユリ遺跡は、三方湖に注ぐ鱒川の支流である高瀬川の左岸の山際に位置します。平成 2・3・18・19 年に行われた発掘調査で、縄文時代の丸木舟 9 艘が出土した低湿地遺跡です。今回の調査は、平成 22 年に行った試掘調査を踏まえ、ユリ遺跡の集落検出を目的とした学術発掘調査を行い、平地住居跡を含む遺構を複数検出しました。ユリ遺跡での遺構検出は今回の調査が初めてです。

遺構 平成 22 年の試掘調査では、山際で谷奥にあたる部分を中心に試掘トレンチを 7 か所設定し、最も西側にあたる部分で柱穴跡と思われる遺構を検出していました。今回の調査でトレンチを 6×7 m の範囲で拡張したところ、柱穴跡が楕円形に巡り、土間状に硬化した床面が広範囲に渡って検出されました。掘り込みが確認できないことから、これらは平地住居を少なくとも 1 軒構成する遺構群と考えられます。楕円形の柱穴列の西側に、出入口を構成すると考えられる長方形の小さな柱穴列もあり、平地住居跡の平面形は、短い張出部をもつ柄鏡形に復元できます。平地住居跡のほぼ中央に径約 1 m 及び径約 7 cm の炉跡が 2 か所あります。柄鏡形平地住居跡は、南西に約 1 km の場所にある北寺遺跡でも検出されています。平地住居跡に隣接して、人頭大の礫が集められた集石遺構も検出されました。集石遺構の下部には、長径約 1.3 m の楕円形の浅い掘り込みがありました。これらの遺構が掘り込まれていた灰白色砂礫混じり土は、過去の調査で縄文時代早期の遺物を出土しており、住居跡の直上に堆積していた砂質土は縄文時代後期前半に比定されています。したがって、柄鏡形住居跡の形式を考慮すると遺構の構築された時期は、縄文時代中期から後期と考えられます。また、住居跡が確認された調査区の東側にも 2×3 m のトレンチを設定したところ、柱穴跡と思われる遺構が確認されたことから、集落は住居跡発見地点から東側にも広がっていたことが想定されます。これらの遺構群から、ユリ遺跡 1 号丸木舟出土地点までの距離は約 20 m でした。

遺物 今回の発掘調査で出土した遺物は、コンテナ箱 3 箱分です。土器類は細片が多く、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器などが少量出土しました。石器類は、石鏃、磨石、敲石、石皿、局部磨製石斧、打欠石錘、打製石斧などが出土しました。土製品には、古墳時代

～平安時代の管状石錘があります。

まとめ ユリ遺跡で住居跡が検出されたことで、丸木舟を利用した縄文時代の集落での生活が今後具体的に復元されていくことが期待されます。同じく平地住居跡の検出された北寺遺跡・かつてあった「古三方湖」の対岸にあたる藤井遺跡と時期的に重なる遺跡であり、周辺の遺跡との関連性の解明なども今後の課題です。 (小島秀彰)



平地住居跡（北西から）